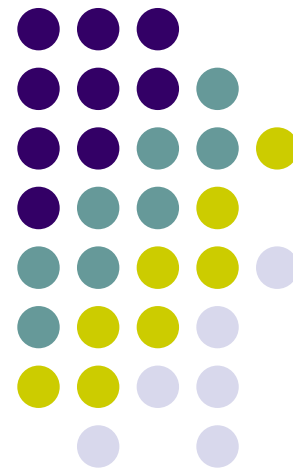


# PETボトル入札制度検討会 今後の進め方

【第3回】PETボトル入札制度検討会

平成25年6月21日(金)

(公財)日本容器包装リサイクル協会





# 1. 各委員からのご意見

## 【I. 平成26年度入札方式と中長期的課題の議論に関すること】

区分	ご意見・ご指摘
特定事業者	① バージン樹脂市況変動への追随性の低さ。 ② 過当競争による高値入札 ①、②の課題解決は、互いに関連するところがあり、①の市況変動への追随性についてのみ考慮された改善策がベストとは言えない可能性がある。従って、①、②について、それぞれが単独ではなく並行して協議、検討されるべきである。
特定事業者	「中長期的課題」は、文字通り問題点が分かっているにもかかわらず、解決に時間が掛かる課題であるので、まずは現状の中での「短期的課題」を解決するべきではないか？ それは、「中長期的課題」を解決出来るまでの、暫定的な物でいいと思う。
再商品化製品 利用事業者	中長期的課題についての議論も必要となる。それぞれは単独で議論できるものではない。十分議論する時間がないのであれば、平成26年度入札方式については暫定的に定めるべきである。
有識者	中長期的課題の議論も必要である。本検討会であがっている中長期的課題を考慮せずに議論を進めていくことは難しいと考える。本検討会において、平成26年度の入札方式については、暫定的な対応として結論を出すことはできると考える。入札方式の変更によって期待できる効果とその限界については、本検討会のなかで明らかにできるのではないだろうか。



# 1. 各委員からのご意見

## 【 I. 平成26年度入札方式と中長期的課題の議論に関すること】

所属・御氏名	ご意見・ご指摘
経済・金融アナリスト	本検討会では、当初設定した検討の範囲に基づいて議論を進めていくべきであり、中長期的課題について議論していくことは相応しくないと考えます。
経済・金融アナリスト	今回は不必要。当初から中長期的課題についての議論が前提になっていたのではないかと。今回は平成26年度について、暫定的な結論を出すに留めるべき。中長期的な入札方式を決めるためには、数年度にわたる試行錯誤の検討が必要。
市町村	本来であれば、今後の入札制度を検討するにあたっては、これらの要素を総合的に考慮した検討をすることが適当であると考えます。短期課題としてあげられた事項を中心とした議論を検討会として取り急ぎ進め、まずは26年度の入札方法を暫定的に決めたらどうかと考えます。中長期課題を含めた議論を再度当検討会で行い、そのうえで最終的な入札方式を決めるという二段階方式にするのがいいのではないかと思います。
市町村	確実に関係者に多大な混乱が生じることが想定される場合は別だが、本検討会では、入札方式と中長期的課題は各々別途検討すべき性質だと考える。今回の入札制度変更を含め、多様な意見は次期法改正の中で十分議論されることとなる。



# 1. 各委員からのご意見

## 【Ⅱ. 中長期的課題の議論の場としての本委員会の立ち位置に関すること】

所属・御氏名	ご意見・ご指摘
特定事業者	前述のごとく構造的課題解決と入札制度改善があいまってのシステム改善になるという視点からすれば、これの協議の場は「入札検討会」以外にあるはずはない。そのためには「入札検討会」を補完するWG、または、小委員会の設置が不可欠である。また、総合評価方式等の導入が審議会マターとするなら、審議会ワーキングに準じるようなメンバーを検討会委員として追加することも必要になると思われる。
特定事業者	本検討会で全てを決める事は当然無理だと思われませんが、現システムの問題点を洗い出し、解決方法について議論する事は、次段階への足がかりになるのではないのでしょうか？
再商品化製品 利用事業者	方向性を議論する場としては適切である。しかしながら、必要であるが十分ではない。本委員会ではたたき台を作成し、議論する場を作るための道筋を作ることが有意義であると考えます。
有識者	限られた時間のなかで、中長期的課題について何らかの結論を導くことは難しいであろう。また何らかの結論が出ても、それは本検討会として一つの意見を提示するに過ぎず、すぐに政策等に反映できるものではない。入札制度の変更することのメリット・デメリット等を踏まえ、期待できる効果ないし限界を整理し、それを中長期的課題と関連付けていくことが重要であると考えます。



# 1. 各委員からのご意見

## 【Ⅱ. 中長期的課題の議論の場としての本委員会の立ち位置に関すること】

所属・御氏名	ご意見・ご指摘
経済・金融アナリスト	本委員会として何をすべきかについては、当初の目的通り進めていくことが望ましいと思っています。中長期的課題についての方向性について議論する場が必要であれば、別途、その場を設けるべきであり、委員会の延長、開催回数の増加などは避けるべきであると考えます。
経済・金融アナリスト	すでに議論の実績があり、検討すべき問題点・課題が抽出されていると言う点では適切と思う。ただ、長期的には、日本の産業構造の変化を踏まえた制度設計も必要。その場合、当然、本検討会の枠を超える話であり、適切ではない。
市町村	当委員会でこのような事項を検討することは適切ではないと思います。そのため、中長期課題についても、検討会で議論できる範囲とそうでない範囲を仕訳ける必要があると考えます。仕訳けにあたっては、今後行われる容器包装リサイクル法の見直し検討において、国の審議会などで議論される項目との重複がないようにすることが重要であると考えます。
市町村	多様で重要な論点が存在する。これらの論点は、法制度の根幹的な部分であり、国の審議会において法改正のなかで議論すべき事項であると考えます。本検討会は、これらの論点を抽出・整理し、国の制度改正の議論につなげていくことが役割ではないかと考える。



## 2. 今後の検討会の進め方 (提案)

### 【1】ワーキング・グループ (WG)の設置

○本検討会は、当初平成26年度以降のPETボトルの相場変動に対応できる入札の仕組みのあり方を決めることが目的であり、業務遂行上のリミットまでに決定する必要があるため、予定通り第4回検討会までに結論を得るものとする。

○ただし、入札制度と総合評価制度などの中長期的課題は密接に関連しているので並行して議論すべきとの複数の委員からのご指摘にも対応するため、WGを設置する。

○WGは委員の有志による自主的な活動とする。従って謝金の対象とはしませんが、首都圏以外から参加する委員のために協会は交通費を負担する。



## 2. 今後の検討会の進め方 (提案)

### 【2】ワーキング・グループ (WG)の目的

○第2回検討会でまとめた検討課題のうち、再生PETボトル素材の市況追随性の向上(期中の市況連動が可能な方式の検討、入札回数の見直し)以外の課題について、WGで取り上げるべき項目を選び、問題点、PETボトル再商品化の円滑な推進のために解決すべき課題などを整理する。

○本検討会で決定できる性格のものではないので、あくまでも容り法改正審議に向けての論点整理といったスタンスであり、検討会に報告して意見の整理を行い、国の審議会等への提案を行う。



## 2. 今後の検討会の進め方 (提案)

### 【3】検討会の1回延長

○当初、8月下旬または9月上旬に第4回検討会を行い終了する予定であったが、8月下旬に第4回を行い平成26年度以降の入札制度についての結論をまとめ、9月下旬に第5回検討会を追加開催して、WGでまとめた中長期的課題についての検討内容について議論し、本検討会としてのとりまとめを行う。

○第4回検討会では、平成25年度下期落札結果を踏まえての議論を予定するが、年2回入札の市況に対する追従効果などの分析を十分行う余裕がないことも考えられ、その場合は第5回検討会に結論を持ち越すこともある。

以上